

センター試験 英語 (本試験) 分析

全体概況

試験時間 80 分

大問数・解答数	大問数：6 題	解答数：54 問
難易度の変化（対昨年比）	○ 難化 ○ やや難化	○ ほぼ同じ ● やや易化 ○ 易化
問題の分量（対昨年比）	○ 多い	● ほぼ同じ ○ 少ない
出題分野の変化	○ あり	● なし
出題形式の変化	○ あり	● なし
新傾向の問題	○ あり	● なし
<p>総評 問題の分量、出題形式ともに大きな変化はなかったが、全体的にやや易化した。読解問題では従来にも増して文構造の簡単な読みやすい文章が出題された。例年通り読解の比重が非常に高く(164点/200点)、文法知識よりも語彙力や速読力の差が得点差につながったと思われる。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	コメント
第 1 問	発音・アクセント	14 点	昨年と同様、発音問題×4、アクセント問題×3 出題であったが、アクセント問題は見出し語付きの問題に戻った。発音問題は易化したと言える。
第 2 問	文法・語法・会話	41 点	昨年と同様、文法と語法(語彙)の出題割合は 1 対 1 であった。難易度の変化はほとんどなく、会話も含めて標準的な出題であった。
第 3 問	文脈把握 語数 A. 139 語 B. 314 語 C. 261 語	46 点	昨年と同様、語句の意味、意見の要約、欠落文の補充という形式の出題であった。難易度は標準的からやや易というレベルで、論理的に読解できれば得点源にできたと思われる。
第 4 問	資料読解 語数 A. 372 語 B. 202 語	33 点	昨年同様情報の読み取り問題が出題された。A は<木材の乾燥>についての事柄を本文と線グラフから、B はライブに関する広告から情報を読み取る問題であった。B の問 1 は指示文があいまいだったので解答に時間がかかったかもしれない。
第 5 問	ビジュアル読解 語数 686 語	30 点	昨年と違い英文の難易度は、やや容易になった。留学プログラムの説明会で、二人の学生が体験談を語るという文章が出題された。第 5 問は「経験したもの」を問うビジュアル問題であった。
第 6 問	長文読解 語数 609 語	36 点	昨年同様論説文が出題された。<人がやるべきことを後に延ばす理由>を扱った文章で、昨年度の出題文と比較してほぼ同じ語数だが、より読みやすい文章であった。